令和５年１１月市長定例記者会見

日時：令和５年１１月２日（木）　午後１時３０分～
場所：射水市役所会議室３０２
報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、
富山テレビ放送、射水 CATV、
庄東タイムズ・ホットライン小杉
当局出席者：市長、財務管理部長、市民課長、保健センター所長

〇質疑応答の概要

Ｑ１．　先月生源寺でクマが出た際に、市のホームページや市公式ＬＩＮＥで情報提供をしていたが、この方法では限られた方しか情報が得られない。より広範囲に情報発信する必要があるのではないか。

Ａ１．　生源寺地内でクマの目撃情報があった際、即座に確認パトロールを行い、周辺住民にクマの目撃情報があったことの注意喚起や情報提供を行った。併せてホームページやＬＩＮＥなどで周知を図った。しかし、県内の他の地区では人的な被害も発生し、民家に進入してくる事例もあるため、危険度が高まっている状況だと認識している。今後は、クマの移動状況にもよるが、情報提供・情報発信をできるだけ広く、しっかり周知を図り、安全を確保するための注意をしていただくような体制・対応を組んでいきたい。

Ｑ２．　城端線・氷見線の経営移管についてどのように評価するか、また一部で射水市が経営安定化基金への負担を示唆しているという話があるが、資金を拠出する可能性があるのか教えていただきたい。

Ａ２．　城端線・氷見線は、氷見市・高岡市・砺波市・南砺市の４市、県、ＪＲ西日本で、あいの風とやま鉄道に移管すると話を進めておられる。おそらく今後の検討の中で直通化の話も出てくるかもしれない。直通化により、城端線・氷見線からあいの風とやま鉄道へ直接相互乗り入れが可能になれば射水市にとってメリットであり、市民の利便性が向上することになると期待をしている。

一方で負担について、経営安定基金へ資金を出すことに射水市が理解を示したという話が一部であるようだが、言及したり発言をしたりしたことはない。あくまでも４市で、従来のあいの風とやま鉄道で設けているものとは別に、城端線・氷見線の経営に活用する基金を設置すると認識している。城端線・氷見線からあい風とやま鉄道への乗り入れにより、射水市民の利用の効果も考えられる。射水市も一定程度の負担が必要ではないかという話や状況が見えてきた場合は、検討することもやぶさかではない。基本的には４市で負担されると考えている。

Ｑ３．　経営安定化基金とは別に、場合によって、相互乗り入れに関する経費が発生する際は負担することもありえるのか。

Ａ３．　内容や金額にもよるが、射水市が関係し恩恵を受けるものについて、一定程度負担をする必要がある状況となった場合、簡単に了承することはないかもしれないが、検討しなければいけないのではないかと考えている。

Ｑ４．　今年１１月で市長の任期は折り返しを迎える。この２年の自己評価と今後２年間の市政運営で実現したいこと、目指したいことを教えていただきたい。

Ａ４．　この２年間のうち、１年余りは新型コロナウイルスの影響が引き続き残った状況の中で、感染防止対策に終始した部分があった。加えて、エネルギー高、物価高が続いており、市民の生活、市内企業の経営にも大変影響が及んでいる。それに対して必要な対策、支援も国の交付金を活用しながら取り組んでいる。

この２年間で行えたことは、今年４月からの第３次射水市総合計画を策定し、スタートしたことである。コロナウイルスも経験し、市民の価値観、生活様式、働き方などが変化していることに加えて、少子高齢化・人口減少も進んでおり、公共施設の老朽化の課題にも直面している。さらに、「脱炭素社会」の実現や、誰ひとり取り残さない「持続可能な社会づくり」に向けての機運の高まり、県も力を入れている一人ひとりの幸せを見つめ直す「ウェルビーイング」もまちづくりに意識していくことが求められるようになってきた。社会経済情勢、社会からのまちづくり

に対する要求が多様化してきている。今回の総合計画は、市民や多くの団体、審議会から多様な意見をいただき、これからの新しい時代において、射水市が目指していく将来像、それに向けて進んでいくべき様々な施策をまとめることができた。今後は、まず今回の総合計画に掲げた目標・施策をしっかり進めていく必要があると考えている。

一方で、社会の動向が急速・急激に変化している。しっかり変化を捉え、課題解決や市民サービスを向上させていく手法として、最近ではデジタル技術が非常に発達してきている。デジタル技術を柔軟に、積極的に取り入れながら、市民の皆さんが生活の質の向上を実感できるように、射水市で生活しながら満足していただけるように進めていきたい。

Ｑ５．　現在の任期を終えるのは２０２５年である。２０２５年は予定通りであれば参院選が行われる年でもある。任期を終えた後の進退について、また参院選に対する考えについて教えていただきたい。

Ａ５．　今の段階では、残された任期を市政の進展、市民の福祉の向上、そして市民の幸せの実現に向けて全力投球していくことが大事だと考えている。その後については、これまでどおり、後援会などの支援者の方、市民の皆さんの意見をしっかり聴きながら判断をしていくことになる。

参院選については、現政権が打ち出す施策、支持率に多くの方が関心を持たれていると思っている。これまでの選挙は、無所属という立場で、自民党や公明党からの推薦をいただいてきている。万が一、次にまた選挙を戦うことなったとしても、そのスタンスは堅持していきたいと考えている。まずは、任期をしっかり全うし、市民の幸せの実現に向けて全力投球することと、支援者や市民の皆さんの声をしっかり聴きたい。